

令和7年千葉市教育委員会会議
第10回定例会会議録

千葉市教育委員会

令和7年千葉市教育委員会会議第10回定例会会議録

日時 令和7年10月21日（火）

午後2時00分開会

午後3時03分閉会

場所 教育委員会室

出席委員	教	育	長	鶴岡	克彦
	委		員	小西	朱見
	委		員	大山	尋美
	委		員	大濱	洋一
	委		員	杉山	浩
	委		員	磯邊	聡

出席職員	教	育	次	長	中島	千恵	学	校	施	設	課	長	大久保智之					
	教	育	総	務	部	長	西	公	厚	学	事	課	長	小林 公人				
	学	校	教	育	部	長	川名	正	雄	教	育	指	導	課	長	小石 伸一		
	生	涯	学	習	部	長	大塚	暁	教	育	支	援	課	長	高橋 泰雄			
	<small>学校教育部参事（教育改革推進課長事務取扱）</small>					松田	昌	幸	保	健	体	育	課	長	太刀川 裕			
	中	央	図	書	館	長	佐久間	仁	央	教	育	セ	ン	タ	ー	所	長	渡辺佳代子
	総	務	課	長	山田	利	雄	養	護	教	育	セ	ン	タ	ー	所	長	小谷 泰也
	企	画	課	長	望月	宏	次	生	涯	学	習	振	興	課	長	志保澤 剛		
	教	育	職	員	課	長	川島	政	美	文	化	財	課	長	君塚 常行			
	教	育	給	与	課	長	吉野	嘉	人	総	務	課	総	括	主	幹	石毛 実	

書	記	総	務	課	総	務	班	主	査	中	台	陽	一	郎	総	務	課	主	任	主	事	小	川	和	也
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 1 開会
教育長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全員の委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
鶴岡教育長より小西委員を指名
- 4 会期の決定
令和7年10月21日（1日間）とすることで全委員異議なく決定
- 5 会議録の承認
令和7年第4回定例会の会議録を全委員異議なく承認
- 6 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定

7 議事の概要

(1) 報告事項

報告事項(1) 令和7年第3回千葉市議会定例会について

山田総務課長より報告があった。

報告事項(2) 令和8年度（7年度実施）千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考の結果について

川島教育職員課長より報告があった。

報告事項(3) 第68回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について

小石教育指導課長より報告があった。

報告事項(4) 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

小石教育指導課長・渡辺教育センター所長より報告があった。

報告事項(5) 千葉市科学フェスタ2025の実施について

志保澤生涯学習振興課長より報告があった。

(2) 議決事項

議案第36号 令和7年度末及び令和8年度千葉市立学校教職員人事異動方針について

川島教育職員課長より説明があった後、全委員異議なく、原案どおり可決した。

(3) 発言の要旨

報告事項(1) 令和7年度第3回千葉県議会定例会について

鶴岡教育長 報告事項(1)「令和7年度第3回千葉県議会定例会について」、
総務課長、説明をお願いします。

山田総務課長 報告事項(1)「令和7年第3回千葉県議会定例会について」、
報告します。

議案書1ページをお願いします。

はじめに、「1 会期」ですが、今定例会は9月4日から10月2日までの会期で、議案質疑、教育未来委員会、代表質疑、決算審査特別委員会分科会、一般質問などが行われました。

次に、「2 提出議案等の審議状況」ですが、(1)から(3)については、教育未来委員会の審査を経て、9月17日の本会議において可決されました。(4)及び(5)については、決算審査特別委員会分科会の審査を経て、10月2日の本会議において認定されました。(6)については、9月17日に追加議案として上程され、同日の本会議において大山尋美氏を教育委員会委員に任命することについて同意されました。

次に、「3 議案質疑・代表質疑・一般質問」ですが、まず、(1) 議案質疑についてですが、議案質疑を行った2人が教育委員会に関する質疑を行い、教育次長が答弁をしました。次に(2) 代表質疑についてですが、代表質疑を行った4会派全てが教育委員会に関する質疑を行い、教育長が答弁をしました。主な質疑の内容は記載のとおりです。

議案書の2ページをお願いします。

最後に、(3) 一般質問についてですが、一般質問を行った31人のうち20人が教育委員会に関する質問を行い、教育次長が答弁をしました。主な質問の内容は記載のとおりです。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

磯邊委員 丁寧なご説明ありがとうございました。

2ページの下から2番目のカスタマーハラスメント対策についてですが、私がスクールカウンセラーをしていた経験の中でも、保護者の方から非常に不当な要求や、過剰な要求を突き付けられていて、担任や管理職等が非常に疲弊している事例を見聞きしております。つい最近も千葉市ではないですが、私の知り合いの管理職がご家庭から呼び出しをされて、土下座をして帰ってきたというような事例もあります。

そう考えると、教育現場だけではなく、千葉市役所の公務員の皆様におかれましても、安心安全を守るためにカスタマーハラスメント条例をまず上位の段階で制定していただき、教育委員会に下ろしていただくようなことを、個人的には一刻も早くお願いしたいなと思っているので、千葉市としては今どのようになっているのかを教えてくださいと思います。

川島教育職員課長 まず、先ほどのお話の中で管理職や教諭が疲弊しているという話でしたが、現状としては管理職向けのコンプライアンス研修等で、保護者等への適切な対応方法などについて学ぶ機会を設けているほか、学校への不当・過剰な要求があった場合には、教育委員会事務局内において、関係課が必要に応じて学校に助言する等の対応を行っているところです。

なお、学校によっては対応が困難な事案に出くわすこともあります。こうした場合には、教育委員会事務局に配置されている警察OB、あるいはスクールロイヤーに相談しながら、助言を求める体制を整えているところです。

高橋教育支援課長 教育支援課においても、同じく警察OBの助言や、あまりにも過剰な場合については、法律相談やスクールロイヤー制度を活用して、法的な対応をできるような形で学校を支援しているところです。

鶴岡教育長 ロジカルな保護者が増えてきまして、法律をよく知っている方が、クレームを言ってきて、それに対して弁護士を立てて対応するケースも随分増えてきました。

磯邊委員 根拠として、カスハラ対策条例みたいなものがあるかないかとは、大きく違うのではないかと思います。先行して4月に東京都が施行しており、それが東京都教育委員会まで下りてきていて、教育現場の盾になっているのではないかと思います。電話も全て録音すればいいと思っているのですが、それは色々な意味でお互いが子どもたちのために、良い解決策を得られるような緊張感があるといいのかなと思っています。

小西委員 本日現在において条例があるのかないのかという点と、現在、策定に向けて検討が進んでいるのかどうか、という点もお聞きできればと思うのですが、どうでしょうか。

鶴岡教育長 まだ条例の制定はされていません。

小西委員 条例の作成は別の局になるかと思いますが、検討状況について何か情報はありますか。

中島教育次長 まだそのような情報はないのですが、職員向けにアンケートをするなど、一步ずつ市長部局でも進めているところですので、今後どうやっていくかも含めて取組については検討をしていくところだと思います。

大山委員 これは市職員、学校現場同時にやっていく感じですか。

中島教育次長 今回の議会でも、市役所の職員は市長部局で答弁をさせていただき、教職員は教育委員会で答弁をさせていただきました。双方で連携しながら進めていければと思っております。

報告事項(2) 令和8年度(7年度実施)千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考の結果について

鶴岡教育長 令和8年度(7年度実施)千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考の結果について、教育職員課長、説明をお願いします。

川島教育職員課長 令和8年度(7年度実施)千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考の結果についてご報告します。

議案書3ページをご覧ください。

8月下旬の2週間に渡り、教員採用候補者選考の第二次選考を実施いたしました。

選考全体の結果についてですが、表の一番下の総合計欄をご覧ください。募集人員1,700名に対し志願者数4,232名で、倍率は2.5倍でした。昨年度の倍率2.4倍より0.1ポイントの増となっております。校種や教科ごとの合格者数や倍率等につきましては、お手元にある資料でご確認ください。

結果につきましては、各受験者宛てに10月初旬に発送するとともに、千葉県教育委員会のホームページにおいても合格者の受験番号を掲載しております。

なお、本市における来年度の採用予定者数ですが、小学校75名、中学校65名、特別支援学校8名、市立高校4名、養護教諭9名の合計161名を予定しております。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

杉山委員 昨年も多いと聞いているのですが、保健体育の志願者数が648名の背景や理由とかは分かりますでしょうか。

川島教育職員課長 令和8年度千葉県・千葉市公立学校教員採用候補者選考においては、中高共通保健体育の志願者数が648名でした。前年度は640名、その前の年には667名でしたので、これは他の教科に比べて一番高い志願者数となっております。

高倍率のため何度も受験する者がいること、近隣の体育大学や武道系の大学、あるいは体育学科における保健体育の免許を取得した者を含めると、体育を専門にして児童生徒に指導したいという志願者が多いという傾向にあるかと思えます。

杉山委員 ありがとうございます。

大山委員 養護教諭のことでお聞きしたいのですが、基本的に1校につき1人の配置になると思うのですが、修学旅行等に養護教諭が一緒に行く場合があると思えます。その際は、養護教諭が不在となることが考えられます。その補填を考えますと、この募集人員50名に対して志願者が409名というのは、予算の関係等があるので、なかなか採用面では難しいと思うのですが、養護教諭が不在の際に、何かあったことを考えるとというお話等もお聞きしているので、今すぐではないのですが、対応を考えていただくとありがたいかなと感じておりますが、いかがでしょうか。

川島教育職員課長 養護教諭も含めてですが、教員の配置につきましては、児童生徒数、あるいは学級数を基準にしているため、大規模校であれば養護教諭が2人配置されるということがあります。つきましては、1人しか配置されていない場合は、現状として学校に養護教諭がいない、あるいは養護教諭が残って、学校によっては看護師等を引率に連れていくようなケースもあるということをお聞きしております。

太刀川保健体育課長 大多数の学校では、養護教諭が修学旅行等に帯同する場合は、各学年等で対応を図っているという状況です。

大山委員 養護教諭が不在という状況が、現実にあるということですよ。

鶴岡教育長 そうですね。

磯邊委員 高等学校だと、養護教諭は学校に残って、契約した看護師が帯同するというのが当たり前になっていますが、中学校だと3学年いるうちの1学年にだけ養護教諭が張りついて、残りの学年に張りつかないということになります。そう考えると養護教諭が、色々な宿泊行事にほぼ必ず帯同しなくてはならないという負担を踏まえると、看護師と契約して対応するというのも、1つの選択肢なのかなと思えます。

大山委員 問題提起とだけいただければと思います。

報告事項(3) 第68回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品
総合展覧会【科学部門】について

鶴岡教育長 第68回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について、教育指導課長、説明をお願いします。

小石教育指導課長 第68回千葉市小・中・中等教育・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会【科学部門】について、ご報告します。

議案書の5ページをお願いします。

9月19日から21日までの3日間、きぼーる1階の「きぼーる広場」と「千葉市科学館」を会場に開催しました。この総合展覧会科学部門は、夏休みに児童生徒が取り組んだ自由研究の科学工夫作品や論文の優秀な作品を一堂に展示し、その成果を公開するものです。昨年同様に入場者制限なしで開催することができました。

「3 出品点数」ですが、各学校から選ばれた作品総数は898点です。その中から201点を推奨として選出し、さらにその中の93点を10月18日から19日に千葉県総合教育センターで行われる「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」に出品しました。

「4 入場者数」ですが、今年度は昨年度の入場者数を若干下回り、3日間で4,497人の参観者となりました。出品数や児童生徒数の減少が理由と考えられます。

「5 展示」ですが、十分な広さがある1階「きぼーる広場」には小学校の全学年の科学論文を展示しました。展示スペースを広く確保するため、論文の作成過程で使用した実験道具等の付属品は展示せず、論文ができるだけ重ならないよう並べたことにより、論文冊子を開いて見入る人々の姿が多く見られました。

7階企画展示室には小学校全学年の科学工夫作品、8階科学実験室には中学校の科学論文及び工夫作品を展示しました。

様々な角度から観察や実験を行い、科学的な手法に基づいて探求した論文や、実用的なアイデアを取り入れた工夫作品が展示されました。

工夫作品では、二次元コードから実際に動く様子を見られる作品が増え、作品の動きや工夫を熱心に見ていました。参観する家族からは、驚きや感動の声が多く聞こえてきました。論文

では、環境問題をテーマにした作品が多く、中には生成AIを活用した作品も出品されていきました。展示された優秀な作品を真剣に見ながら、来年は「こういう実験をしてみたい」、「こういうものをつくってみたい」と話す声が聞こえ、改めて展覧会を開催する意義を感じました。

また、来年1月24日から2月1日には、総合展第2部（書写、図画工作、美術、家庭、技術・家庭、特別支援教育部門）を開催する予定です。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

小西委員 ご説明ありがとうございます。毎年のことですが、非常にレベルが高い作品ばかりだなあと観賞しながら見ておりました。

1点、工夫作品についての質問なのですが、以前は教育長賞と科学館賞のみビデオで流されていたかと思います。今年はそれがなく、今年、ビデオ映像はどうなったのかなと思ったので、教えていただければと思います。

小石教育指導課長 昨年度の教育長賞については、高齢者のおはしの作品だったと思います。基本的には昨年もそうだったのですが、二次元コードを推奨していて、今回二次元コードから見られる作品がかなり多かったと思います。昨年は教育長賞の作品では出来ず、手に触れられないので、急遽あのようなビデオ撮影を行ったという形になります。

小西委員 分かりました。作品の説明内容の紙に二次元コードがあったのですね。

鶴岡教育長 見つけられなかったですか。

小西委員 すみません、私は見落としてしまいました。もう少し分かりやすく展示いただけると、ご高齢者など他の方にも分かりやすいかなと思いました。

小石教育指導課長 承知いたしました。

小西委員 よろしくお願ひします。

大山委員 説明や先生の評価が書いてある下の方に、二次元コードがついている作品が結構あったのですが、ついていない作品もありました。後、カメラで写真を撮影してはいけないというお話もあったので、その二次元コードを読み取っていいのかいけないのか分からない方が結構いらっしやった感じがしました。

一般の方が二次元コードを読み取っていいというのがきちんと分かると、もっとご覧になったのではないかと感じまし

た。

また、7階と8階の会場のことについてですが、会場がかなり奥なので、場所が分からない一般の方が結構いましたので、周知の工夫が必要だと感じました。

小石教育指導課長 科学館としては、科学館全体を見てもらいたいという意向があり、そこにたどり着くまでに、色々なものを見て欲しいとのこと。ただ、周知の方法に関しては、工夫ができると思いますので、今年度の課題としてまた来年度検討していきたいと思います。

磯 邊 委 員 ご説明ありがとうございました。私も土曜日に行かせていただきました。非常に力作が多くて勉強になりましたし、多くの子どもたちがテーマを持って複数年にわたって積み重ねていく様子がとても良いなと思いました。思いつきでやるのではなく、だんだん深めていって、学年を追うごとに本質に迫っていくような研究があり、ご指導も大変だったのではないかなと思うのですが、改めて先生方にお礼を申し上げたいと思います。

研究者である私として、気になったのは、参考文献や引用文献がきちんと明示されていない研究があったので、研究ということであるならば、きちんと先行研究であるとか、文献にリスペクトをするような姿勢が養われるとより良いなと思ったので、申し上げたいと思いました。

小石教育指導課長 総合展の作品で、以前もそのことについてご質問される一般の方もいたので、注意していきたいと思います。

鶴岡教育長 私も20日の土曜日に行ったのですが、ほんわかした一場面があったのでご紹介したいと思います。

教育長賞を受賞した子が、市長と教育長が来館するというのを聞きつけたらしく、これは直接説明したいと、私たちが行くまで帰らず待っていて、行ったら説明させてくださいと。二次元コードどころか、対面で説明を受けました。我々は直接聞くと思いが強く伝わってくるので、実際にそういう説明を見る、聞くことが大事だと思いました。

報告事項(4) 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

鶴岡教育長 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について教育指導課長及び教育センター所長、説明をお願いします。

渡辺教育センター所長 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について報告

ます。議案書の7ページをご覧ください。

今年度の調査は、4月17日に市内小学校107校の6年生約7,200人、中学校54校の3年生約6,600人の児童生徒を対象に行われました。

教科に関する調査は、小学校は国語、算数、理科の3教科、中学校は国語、数学、理科の3教科が実施されました。問題内容は毎年変わっています。また、児童生徒、学校に対する質問調査も併せて実施され、調査結果につきましては、文部科学省から7月29日に公表されております。

「2 教科別結果概要」についてですが、全国平均正答率との比較で申し上げます。本市の小学6年生の学力の状況は、国語は1ポイント下回り、算数は1ポイント上回り、理科は同等でした。中学3年生の学力の状況は、国語と数学は1ポイント上回り、理科はIRTスコアで4ポイント上回るという結果でした。IRTスコアについては、11ページにご説明を掲載しております。

8ページからは、正答数分布を表しています。特徴としては、全国とほぼ同様の山型となっています。上位層については全国平均よりも少し高い傾向が見られるとともに、中間層が全国平均の割合より少ない教科(小学校理科・中学校国語・数学)があります。今後は各教科の結果を分析したものを参考に、下位層と中位層の引上げを図るよう各学校に働きかけていきたいと思っております。

12ページからは、全国平均と各学校の正答率の差が、令和6年度と比較して向上した学校の取組を載せております。各学校の取組を整理しますと、学習面に関しては、「基礎・基本の定着を重視した繰り返し学習」、「児童・生徒同士の協働的な学びや教え合い活動の充実」、「ICTの効果的な活用」を大切に取り組んでいる学校が多いです。また、学習を支える環境として、学習ルールの定着や良好な人間関係の構築、教職員の協働体制づくりなどが挙げられ、大変参考になります。

15ページをご覧ください。

次に、「3 質問調査結果概要」です。帯グラフの括弧の数字は、令和6年度同質問の回答の割合を示しております。まず、〔自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識〕に関する質問項目の1についてです。「自分にはよいところがあると

思うか」への肯定的な回答率は、小学生で85.4%、中学生で85.2%であり、全国平均よりは多少少ないものの、昨年度より小学生は3ポイント、中学生は2.1ポイント向上しています。

17ページをご覧ください。〔ICT機器の活用に関する意識〕です。5「5年生まで（中学校は1、2年生）に受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」の週3回以上の割合は小学生で59.7%、中学生で65.3%と全国よりも低いものの、昨年度よりは小・中学生とも20ポイント以上向上しております。さらなるICT機器の活用を推進してまいります。

18ページの〔ICT機器を活用する自信に関する意識〕に関する質問項目7の（4）です。「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか」と思えますか」への肯定的な回答率は小学生で83.5%、中学生で81.3%と高く、全国と比べても小学生は6.8ポイント、中学生は4.7ポイント高く、ICT機器を活用したプレゼンテーション作成に自信のある児童生徒が多いことが分かります。

22ページをご覧ください。

〔主体的・対話的で深い学びに関する意識〕です。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を捉える設問を2つ取り上げてご報告します。

24ページの13「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができるか」について、小学生は82.5%で全国平均を2.4ポイント下回り、中学生は84.3%で全国平均を0.4ポイント下回りました。

また、26ページの17「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか」について、小学生は89.7%で全国平均を2.2ポイント下回り、中学生は90.9%で全国平均を1ポイント下回りました。小・中学生ともに全国平均より低いものの、今後は先ほどの「自信がある」と答えた児童生徒が多かったプレゼンテーション資料を活用するなどして、自分の考えを伝えたり深めたりするための授業改善を進めていきたいと

思います。

28ページをご覧ください。

〔地域・社会との関わりに関する意識〕では、20「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」の回答について、昨年度は前年度より大幅に向上したため、今年度は多少下降しております。全国と比較すると、小学生は0.3ポイント低いものの、中学生は1.4ポイント高くなっています。千葉開府900年を見据え、郷土に対する愛着を育て、社会に参画する意識を育てるような授業や活動を引き続き行っていくことが必要と考えております。

分析については、以上です。今後の取組については、教育指導課長よりご説明します。

小石教育指導課長 引き続き今後の取組になります。

議案書の29ページをご覧ください。

児童生徒の確かな学力の育成を図るため、次のような取組を通して授業改善を推進して参ります。

まず、市立小・中学校において、全国及び千葉市学力状況調査の結果等をもとに、自校の学力の傾向や課題を把握し、その改善に向けて学力向上アクションプランの見直しを行います。その際、「学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動」、「わかった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげる活動」、「学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり生かしたりする活動」を大切にします。また、本市児童生徒の肯定回答の割合が高かった、ICTを活用したプレゼンテーション作成の自信へと結びつけ、より深い学びと1人1台端末の活用機会の一層の充実を図って参ります。

次に、結果分析を受け、各教科の課題と改善策、指導のポイントを示したリーフレット「結果概要と授業改善のすすめ」や、課題となった調査問題ごとに誤答例や授業改善のポイントを収録した解説動画「学力向上への取組」を作成し、日々の授業での活用促進を図って参ります。

そして、「探究ラボ（新PC教室）の整備と活用」「ICT活用研修との連携の充実」について一層推進していきます。また、家庭学習での取組を含め、ICT機器を活用した実践例を収集し、「Best Mix GIGA事例集」の格納数を増やして参ります。

さらに、各学校への訪問指導の機会を生かし「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、調査問題により明らかになった各教科の課題を指導していくとともに、学び方の改善や顕著な向上が見られた学校の取組を全市に展開させて参ります。

最後に、教育委員会関係各課で連携し、自己肯定感を高めるような指導方法や将来の生き方について考え、夢や目標を持つことができるようなキャリア教育を推進するよう学校に助言するとともに、千葉市キャリア教育の基本方針「未来を拓くキャリア教育」を参考に、キャリアパスポートの活用や職業体験の実施等を促進して参ります。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

徐々に全国との差は縮まってきました。

磯邊委員 細かな分析と説明ありがとうございました。1点、まず良かったと思うのは、学校名が削除されているというのが良いと思いました。

鶴岡教育長 削除しました。

磯邊委員 学校間で委縮が起こらないようなご配慮をいただけたのかなと思っております。感謝申し上げます。

算数の正答数比較のところで、8ページと10ページを見ると、小学校6年生の算数と中学校3年生の数学の山が左にずれています。国語と理科は、比較的きれいな形ですけれども、算数と数学に関しては多峰性といって、統計上、複数の山が混ざっていてこのように理解されるのですが、中学になるとその多峰性が非常に顕著になって、できる子どもとできない子どもの差が非常に大きくなっているかなと思います。

そのことについて、どのように分析をされていて、どんな対策を取られるのかなというところ、もう少し言うと、例えば習熟度別のような、何か特別なプログラムみたいなものの運用を考えておられるのかなというのをお尋ねしたかったのと、それから、カウンセラーとして聞きたいのは、29ページの自己肯定感を高める指導方法は、ぜひ私も知りたいので、どのようにされるのか教えていただきたいと思います。

小石教育指導課長 今回、中学校の数学に関しては、全国的に難しい問題だったため、平均点については、分布グラフが低い方に偏っております。昨年度も分布的にはそんなに変わりませんでした。

今後、本市としても数学が苦手な子どもたちに対して、どの

ような学習をしていくのかについては、来年度新しくなるギガタブの中でも、ワークや今まで使っているドリルパークも新しくなりますので、そういったものを活用しながら、数学に対する興味関心を高めていきたいと考えています。

また、先ほど言った解説動画の中にも、本市の小・中学生は算数、数学においてこういったところが課題だよというのを動画で作っており、昨年かなり好評でしたので、今年度もそういったものを作って、先生方に理解を示していただきたいなと思っています。

次に、2点目の自己肯定感ですが、なかなか難しいことであり、日本中の小・中学生の課題だと思います。もちろん本市でも課題の1つで、今、私どもでプラスとして考えているのは、先生方が子どもたちに対して褒めるという能力がすごく向上しています。一昨年よりも昨年、昨年よりも今年度といったように向上しており、こちら側も発信していますが、そういった年代の意識を先生方に持ってもらっています。

また、教育改革推進課で作成しているキャリア・パスポートというのが小・中・高と連続で扱っていきまして、例えば5年生の子が自分のキャリアを考えるとときに6年生の子のキャリア・パスポートを見ながら、先輩はこういうところを見ていたのだとか、そういった形での活用が小学校だけではなく、小・中学校または高校の領域で確認されているので、そういった近い先輩の感覚もキャリアから考えられるのかなと思います。

加えて、授業の中で自己表現の機会を多く設定するなど安心して色々なことを言える雰囲気づくり、そういったものを学校訪問の中で、学校全体で取り組んでほしいということを常々こちらとしては発信しています。

そういった形で取り組んでいきたいなと思っています。

磯 邊 委 員 ポジティブ行動支援などがかなり西日本なんかでは盛んになされていて、子どもたちが随分元気にやっているという報告もあるので、褒め方が上手なことが嬉しいですね。ありがとうございました。

小 西 委 員 感想程度になってしまうのですが、15ページの自分にはよいところがあると思いますか、という質問と、先生はあなたのいいところを認めてくれると思いますか、という2つの

質問なのですが、この2つは、子どもの福祉や権利、自己肯定感に直結する質問かと思いますが、ここがすごく上がっているという点が非常に嬉しく感じました。今お話をお聞きして、なるほどと感じました。引き続き子どもたちの自己肯定感や自己有用感が伸びていくようなご指導をお願いできればと思いました。

I C T機器の活用に関しても、時間自体は全国に比べて短いですが、自信とか効力感については全国と同じぐらいか高いという数値が出ていて、子どもたちが少ない時間の中でちゃんと使えるようになってることや、利活用できるようになっているという部分がよく分かります。この点は素晴らしいのではないかなと感じました。1点お聞きしたいのですが、これは学校ごとのデータは取られているのでしょうか。もし学校間で数値の差が大きかったりするのであれば、数値が低いところに是非てこ入れをお願いできればと思いましたので、よろしくお願ひします。

渡辺教育センター所長 I C Tの活用の支援に関しては、その年々の課題がありますので、今年度に関しては、第1次G I G Aスクール構想の一番最後の年でもありますので、活用率の低い学校に関して、その学校の課題を改善するための出前の講座を行うなど、学校の推進者と一緒に解決していくということで、活用率が4月に比べて毎月上がっているという状況もありますので、そのような支援を続けていきたいと思っております。

小西委員 ありがとうございます。

小石教育指導課長 付け加えて、教育センターから色々な小・中学校のデータをいただいて、教育指導課も学校訪問指導を行っているのですが、活用率が低い学校については、1時間程度の分科会があるので、教科ごとに5分から10分程度、I C Tの活用に関する事例を話すという機会を今年度は設けています。

小西委員 ありがとうございます。

鶴岡教育長 小西委員より、I C Tの数値の部分でご指摘があったのですが、せっかくですので、教育委員の皆さんに、さらに説明を付け加えた方がいいかなと思いますので、プレゼンなどの数値がすごく伸びているので、新しい取組の1つである探究ラボについて、詳しく説明をお願いします。

松田教育改革推進課長 P C教室を探究ラボという形で整備しました。1人1台端

末の環境はできていますので、PCを取り除いて、それぞれ可動式の机、椅子、そして、グループでディスカッションしやすいようにそれぞれのモニターがあつて、また、前方には大型のスクリーンがあつてというような形で整備しました。実際に幾つか見に行かせていただきましたけれども、各学校この部屋は非常に良いということで、グループで子どもたちがGIGAタブなどを使用しながらグループで討議をする、それをまた発表するということが非常によくできていました。

また、ウェブカメラなども付いていて、離れたところとも繋がってディスカッションできるということで、各学校での有効な活用というのは、更に進んでいくのだろうとは思いますが、導入してすぐに見に行ったときにもそうした高評価をいただいているところでもありますので、さらに活用を促していきたいと思っております。

川名学校教育部長 補足となりますが、今モニターと言ったのですが、探究ラボ（昔のコンピューター室）の中にグループ用モニターが6台あります。そのモニターを活用してプレゼンができるようになりました。市役所でも同じような形で会議をやっているのですが、そういうものが備わったことがプレゼン活動を促して、数値になったのかなと思います。その数値は今年の4月ですから、去年の12月頃から整備しましたので、その結果が表れているのかなという印象を持ちました。

鶴岡教育長 もう少しだけ言っておくと、各学校にコンピューター室があつたじゃないですか。もう1人1台端末が貸与されているので、あのコンピューター室はもう要らないんですよ。だから、あのコンピューター室を普通の教室にしようかと思つたところ、個別最適な学びと協働的な学びという言葉があつて、個別最適な学びは普通教室でできるが、協働的な学びはそういう場所に移って、大きなモニターを使って発表し合ったりする場所にしようとなつたのが、探究ラボです。

そこにその機械を持って行って、みんなで協働的な学びをしようということにしたので、このデータが出てきているのだろうなと思います。

磯 邊 委 員 今は全ての学校がそうなっているのでしょうか。

鶴岡教育長 全ての学校がなっています。

磯 邊 委 員 明日見に行ってみます。

鶴岡教育長 ぜひご覧ください。古びたあのテレビはもうないですから。
というところでご理解いただければと思います。

杉山委員 感想になりますが、今のお話で、先日丸亀製麺さんや星野リゾートさんの社長の話を聞いてきて、今はそのプレゼンをする能力がすごく重要になっています。例えばうどんの硬さとか、どう調理すればおいしくできるかというように様々なことを、会社の中でプレゼンをする能力がある人材を求めているというのがあります。

感想なのですけれども、たまたま聞いた話とテーマが一緒だったので、プレゼン能力があるとすごく良いと思いました。

大濱委員 ICTのことについてですが、確かに本市も十分活用はしていると思うのですが、17ページのICT機器の活用に関する意識の5番のところですか。これを見ると、1日に複数の授業で使用している頻度の割合ですが、全国平均と比べると、約半分になっています。

もちろん複数使えばいいという問題ではないですが、これだけ顕著に半分しかないというのは、他のICTの報告を見ても、全国と同じぐらいの割合が多いにもかかわらず、この複数の授業で使う頻度だけが小学校も中学校も全国平均の半分なのです。これは明らかに他の設問と比べて差があるので、この辺のところはどのように評価されるか、お伺いしたいと思います。

渡辺教育センター所長 このほぼ毎日、1日に複数の授業で使用という一番左側の項目は、昨年度まではありませんでした。昨年度までは、1日1回でも活用すればという数値だけでした。

これを見ますと、本市はほぼ毎日、1日1回ぐらいの授業で開くということに関しては、全国とほぼ変わらなくて、1日複数回の授業となると、がくっと減ってしまいます。データ及び推測からにはなるのですが、1つはGIGAスクール構想が始まって何年も経ちまして、とにかく全ての授業で使いなさいと言っているところから、この授業で必要なときはGIGAタブを使う、こういう場面はノートや紙でやったほうが良いというように考えながら使用しているというところですか。

効果的な活用を目指しながら使っているというのが1つの理由ですが、もう1つは、昨年教職員を対象にした調査ですが、

G I G Aタブの活用が進まない原因は何かというところの中で、教職員の約2割が、まだ端末やソフトの効果的な利用方法が実は分からないという回答をしていますので、活用はできていますが、全ての教科で効果的に使っていくところまでは、まだ課題がある教員がいるため、今後そこについて研修や、先ほど言ったような活用率を上げるような取組をしていくことが大事かなと思っています。

この部分が少し表れているかなと思っていますので、今後の課題としていきたいと思います。

松田教育改革推進課長 加えて補足をさせていただきます。先程教育センターから話がありましたアンケートの中で、効果的なソフトの使用方法が分からないとか、ソフトがないといった回答も多くありましたし、その他にセキュリティーが厳し過ぎるのではないかというような意見ですとか、ネットワークが安定していないという意見が多くありまして、やはりそういうところを改善するのが、この活用率の全国との差を埋めるために必要だろうというところではあります。

ネットワークについては、キャビネットを更新しましたので、今年からまずはインターネットの速度に関して、大幅に改善されているはずではあります。

あと、セキュリティーやソフトウェア、端末等については、来年度から新しいG I G Aタブ、ソフトウェアが更新されますので、ソフトの有効活用、使えるソフト、その効果的な使い方、そうしたところを先ほど教育センターが申し上げたように十分周知して参りますし、加えてセキュリティー、ルール面等も使い勝手の良いルールに変えていくというような方針で鋭意整えておりますので、来年度からそのあたりが大きく改善できるように進めて参りたいと思っています。

鶴岡教育長 簡単に言うと、セキュリティーを重視し過ぎていたため使い勝手が悪く、なかなか使いたくても使えなかったとご指摘を受け続けてきました。そのハードルをどんどん下げて使いやすいようにしているので、この部分はどんどん伸びていくはずなのだろうなというところで、途中段階というところではあります。

大濱委員 これだけ差があるということは、全国と比べて、千葉市は特に使い勝手が悪かったということなのですね。

鶴岡教育長 ただ、逆に言うと、そんなとこまでさせちゃうのかというふうに実は思っていたぐらい、他は自由に使わせているみたい
です。そうすると、当然のように問題が起きているので、その
部分の兼ね合いというところも大事かなと思います。

大濱委員 確かに何でも使えばいいという問題ではもちろんないとは思いますが、分かりました。

報告事項(5) 千葉市科学フェスタ2025の実施について

鶴岡教育長 報告事項(5)千葉市科学フェスタ2025の実施について、
生涯学習振興課長、説明をお願いします。

志保澤生涯学習振興課長 千葉市科学フェスタ2025についてご報告します。

議案書の31ページをご覧ください。

本年、開催日は10月11日・12日の2日間です。

会場は、きぼーるでした。今年度は1階のきぼーる広場を科学
体験ブースとしたほか、3階の子ども交流館アリーナで開会
式及びその後はイベントステージとして活用するなどの工夫
を凝らした開催としました。

「3 入場者数」は、2日間合計で1万8,891人となり、
前年度と比べ2,710人の増加となりました。

「4 主な内容」ですが、3階子ども交流館アリーナで今年
度も市長のビデオメッセージによる開幕宣言に続き、市総合
展覧会教育長賞、科学館賞の表彰式を開催しました。写真2
にありますように、式典では教育長からのご挨拶、それから、
受賞した児童生徒23人への表彰状の授与、そして、記念撮影
を行いました。受賞した子どもたちは、緊張しながらも晴れや
かな表情で賞状を受け取っておりました。

また、科学館賞の発表会についてですが、7階に会場を移し
て実施させていただきました。今年度は会場の椅子を追加し
なければ見るできないほどの盛況でして、スライド資料
を活用したり、実際に実験の映像をモニターに映したりす
るなど、意欲と工夫あふれる発表でした。

先ほどのご説明でもあったように、かなり子どもたちのプ
レゼン能力というものが、限られた時間の中で相手に伝えたい
ことをきちっと自分で画面を移動させながら相手にしっかり
話していくというのがすごく印象的でした。写真3の
ところで質問しているのは、実は川名学校教育部長なのです
けれども、テントロールという少し変わったテントウムシを使

って害虫駆除をどのくらいの数できるのかという発表なのですが、私も大変感銘を受けました。

続きまして、表彰式後の3階の子ども交流館アリーナの使い方ですが、海洋ゴミ楽器集団による演奏会や、柳田理科雄先生による笑って学べる空想科学トークショーなどのステージイベントを開催しましたが、今年から255席のスライドできる座席を用意いたしまして、多くの方が座ってゆったりと楽しむことができました、多くの方にご満足いただけたのではないかと考えております。

次のページをご覧ください。

イ)の科学体験ブースですが、2日間で初出展の8団体を含め39団体が様々なワークショップを開催しました。なお、市立千葉高校をはじめとする市内・県内の中学高校生科学部の出展は9団体ありました。また、初出展として、ロボットコンテスト世界大会に出場し数々の賞を受賞した中高生ロボコンチームのサクラテンペスタなど8団体が出展しております。

以下、ウ)にあります千葉市内のユニークな技術や製品などを持つ企業の取組を紹介する千葉オンリーワン企業と身近な科学や、エ)にあります実験・工作教室も多くの方がご参加をいただいたところです。今年度も来場された皆様に科学の楽しさ、面白さ、素晴らしさを提供することができたのではないかと考えております。

鶴岡教育長 当日は天候が悪かったこともありまして、大盛況でした。

本報告とは異なりますが、この大盛況を含めて、700万人の説明をお願いします。

志保澤生涯学習振興課長 おかげさまで科学館開館から今年で、19年目を迎えますが、もう間もなく、入館者数が700万人に到達することが想定されております。

鶴岡教育長 かなりハイペースで、来館者数が増えています。

大山委員 日曜日に中央区民まつりがありまして、お手伝いで行っていたのですが、きぼーるの1階にいたら、プラネタリウムの方に向かっていく親子連れがすごい多かったこともあり、休日の来館者は、かなり増えている印象でした。

志保澤生涯学習振興課長 この18日が祝日だったのですが、市民の日ということもありまして、3日間無料開放を行いました。去年は1日で1,

500人程度来館があったのですが、今年はさらにそれを上回る2,000人超えの来館が連日ありました。

特にプラネタリウムはリニューアルしてから相当評判が良くて、来館者も増えていますが、座席数が1回の投影で200人しか座れず行列になることもあるため、大山委員がおっしゃったような傾向が出ていると思います。

鶴岡教育長 近隣にタワーマンションが増えているので、その影響もあるのではないかと思います。

議案第36号 令和7年度末及び令和8年度千葉市立学校教職員人事異動方針について

鶴岡教育長 次に、議決事項に係る審議に移ります。

議案第36号 令和7年度末及び令和8年度千葉市立学校教職員人事異動方針について教育職員課長、説明をお願いします。

川島教育職員課長 令和7年度末及び令和8年度千葉市立学校教職員人事異動方針についてご説明します。

議案書33ページをご覧ください。

本件は、千葉市教育委員会組織規則第8条第4号の規定により、議決を求めるものです。

本年度の人事異動は、本市教育の一層の振興を図るため、各学校が校内組織を活性化し、今日的な教育課題に積極的に取り組むとともに、市民に信頼される学校づくりや特色ある学校づくりの推進に資するよう、資料のとおり方針を定め実施します。

各学校や教職員の実情を十分に把握し、適正な配置に努めて参ります。

10月30日木曜日に校長を対象とした人事異動方針説明会を開催予定としております。

鶴岡教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

磯邊委員 休職者の方が復職するときに、現任校では嫌だと言った場合に、異動は可能なのかどうかというのを教えてほしいです。

川島教育職員課長 復職にあたりましては、主治医はもちろんですが、産業医面談がありますので、こちらで状況を把握して実態に合わせた復職の準備を、一定程度実際に配慮した実績はあります。

磯邊委員 かつては現任校でないと復職できないような慣例があって、

結局退職せざるを得ない方を何人か見ていたので、そのあたりが第1条第4項ですかね、十分に配慮した人事配置に努めるというところで今のご回答で十分です。承知いたしました。

鶴岡教育長 ご質問もないようですので、議案第36号 令和7年度末及び令和8年度千葉市立学校教職員人事異動方針についてを原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

鶴岡教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決いたします。

8 その他

第11回定例会は、11月7日 金曜日 午後1時15分からとした。

9 閉会

鶴岡教育長より閉会を宣言